気象庁におけるナウキャスト地震情報（その２）

Development of 'Nowcast Earthquake Information' in JMA (2)

山田 尚幸[1]
Naoyuki Yamada[1]

[1] 気象庁
[1] JMA

2003 年(平成 15 年)秋の地震学会で、気象庁が進めるナウキャスト地震情報の取り組みを紹介した。その後、平成 15 年末には、東海地域、東南海・南海地域を中心に多機能型地震計（ナウキャスト地震情報対応型地震計）の整備を終了し、平成 16 年から、有効性検証のための情報の提供を開始したところである。

本講演では、気象庁が進めてきたナウキャスト地震情報の震源決定や予想震度などの精度評価について報告する。具体的な事例として、内陸の深いところ、内陸の浅いところ、海域の浅いところで、それぞれ発生した３つの地震（2003 年 5 月 26 日宮城県沖の地震、2003 年 7 月 26 日宮城県北部の地震、2003 年 11 月 26 日十勝沖地震）について、ナウキャスト地震処理を適用し、推定された震源、マグニチュード、予測震度の精度、及び決定タイミング、余裕時間等を調査した。これらについてその評価結果を報告する。

また、実用化に向けた、ナウキャスト地震情報の有効性を検証するための情報提供についても、現在の取り組み状況を紹介する。